

第6回肝臓病教室

このたび、第6回肝臓病教室が平成23年11月4日に開催されました。今回も28名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、以前から要望が多かった「肝臓癌」です。

まず、北井副院長より「肝細胞癌の外科治療」について講演がなされました。

肝臓の解剖から機能、肝細胞癌の特徴について話されました。肝細胞癌に対する肝切除は、肝機能が比較的良好で腫瘍数が少ない場合の方が望ましいとのことでした。

肝切除の方法については、スライドで手術写真を用いながら説明され、手術後の入院期間、合併症、生存率などを説明されました。また肝臓癌手術においてC型肝炎の場合は、その他の肝炎と比較し生存率が低くなるため、まずはC型肝炎の適切な治療を続けることが何より大切であると説明されました。

続いて、西原検査技師より「肝臓癌と超音波検査」の講演がなされました。

まず、エコー検査について説明されました。エコーの利点は、お腹に機械をあてるだけで痛みを伴わずに確認することが出来ることや広範囲に観察することができる点などにあります。

肝細胞癌も造影エコー検査により明確な特徴がみられ、造影剤のCTより副作用やアレルギーがないため治療後の確認や腫瘍の発見、鑑別診断など日常検査が容易にできます。最後に定期検査による早期発見につとめるよう促されました。

続いて、角田医師より「肝細胞癌の内科治療—分子標的薬を含めて—」について講演がなされました。

肝細胞癌に対する内科的治療には、大別すると肝動脈塞栓療法と経皮的局所療法があります。肝動脈塞栓療法とは、がん細胞は肝動脈から栄養を摂取し増殖するため、この肝動脈をふさぐ治療法です。肝動脈をふさぐにはカテーテルを挿入し、がん細胞に栄養を与えている動脈に血管をふさぐための塞栓物質を流し込みます。また、別の方法として、がんの治療針を穿刺し熱を発生させてがんを死滅させる経皮的ラジオ波焼灼療法もあります。これらの治療方法や適応・副作用について説明されました。

さらに、北田薬剤師から「肝がんの薬物療法」について講演がなされました。

主に分子標的薬について、その作用や用法の説明がなされました。注意点として、高脂肪食は、お薬の作用を弱めることがあるため、適切な時間に服用することが大切です。

同時に分子標的薬では、副作用の多くは（頻度率55.2%）、手足症候群（皮膚症状）であり、その予防法として手足への過剰な刺激の回避、皮膚の乾燥や角化・角質脂厚に気を付けることが挙げられました。副作用が現れた場合、すぐに主治医に相談をすることが必要であると述べられました。

最後に、田中栄養士から「がん治療中の食事療法について」の講演がなされました。

主ながん発生の因子の一つとして生活習慣が挙げられ、野菜や果物、海藻類を積極的にとる肝臓にやさしい食事方法が大切であると説明されました。また、食物繊維の多い食品を選んで摂取することにより、便秘がよくなり腸内からのアンモニア吸収を抑制できます。

またがん治療として、手術＋化学療法＋放射線療法が一般的ですが、食事＋運動療法を併用した方法も再発予防にも効果的であると説明されました。

消化器肝臓病センターでは、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。こんなテーマで取り上げてほしいという要望がありましたら主治医や肝臓病教室スタッフにお申し出下さい。

また今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。

